

令和元年度 地域福祉計画推進協議会

委員意見への回答

第2期高知市地域福祉活動推進計画の推進に向けた取組状況等にかかる意見
(令和元年度第1回地域福祉計画推進協議会 紙面による意見聴取)

1 高知市の取組状況について

	委員名	ご意見	回答
1	島元委員	地域共生社会の実現 自助、共助、公助の連携で防災をはじめ地域力の強化をはかる。 そのために庁内に「地域共生推進室」を設けたことは先見の明がある。	誰もが役割をもって支え合い、つながりのあるまちづくりを進めるにあたっては、地域の皆様の力がかかせません。今後の取組を推進していくにあたり、ぜひ地域の皆様のご協力をいただきながら、地域共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。
2	松下委員	▼高知市の1年間の取組については、庁内連携体制の強化として「地域共生社会推進室」「地域共生推進担当参事」の設置、「ほおっちょけん相談窓口」の設置、「高知くらしつなぐネット(Licoネット)」の導入に加え「地域共生社会推進委員会、同検討部会」の設置など、主に庁内の体制づくりに進捗が見られます。 ▼また、高齢者支援課による支え合いマップづくりの支援や百歳体操等による介護予防活動、地域包括支援センターの再編成、健康福祉総務課による「民生委員協力員制度」の創設等々の取組みも進捗しているように見受けられます。一方、その他にも部署ごとに様々な報告がされていますが、計画との関係でどの程度進捗しているか十分理解するに至りません。一年間で「何が進み、何が遅れているか」、「成果や課題および要因は何か」等々の理解ができる資料提供をお願いしたいです。 ▼地域防災の取組において、私たち初月地区の経験を少し紹介させていただきますと、平成31年度、令和元年度の2年間で、13町内の713名の避難行動要支援者の個別計画を策定し、要支援者を対象とした避難訓練を実施してきました。この取組みは、防災会、町内会、民生委員、地区社協と四者が協働し進めてきました。また、高齢者支援課や高知市社協の支援を受けて「支え合いマップづくり」をベースに、各町内の要支援者を把握し、要支援者宅を数回個別訪問し意見交換しながら「個別計画」を策定しました。その中で、要支援者が日頃抱えている課題が沢山提起されました。見えてきたものは、防災の課題にとどまらず、日常生活の困りごとや福祉・医療・介護等に関する課題など、町全体の課題として受け止め解決しなければならぬものでした。私たちは、これらの課題解決に町内会や防災会、民生委員などが協働して取組む中で、新たな町づくりにつながるものだと考えてきました。このように、避難行動要支援者対策は、災害から命を守る取組みであると同時に、住民の暮らしや様々な困りごとを解決するきっかけとなり、「地域力の強化」に資するものがあることに気づかされました。現在、高知市の要支援者対策は大きく立ち遅れていますが、この取組みが持つ意義を理解し、「庁内の縦割りを排除」し、「行政と地域の協働」を原動力として全市的な展開ができれば、飛躍的に進むものと思います。	第2期策定後、各部署の1年間の取組の進捗状況等を令和元年度にまとめておりますが、「住民一人ひとりができること、心がけること」「地域の身近な人たちや地域全体で取り組むこと」「市社協・行政が取り組むこと」のそれぞれについて令和2年度に実施予定の住民活動に関連する意見交換会や、各実施主体等の取組のとりまとめを行った上で、関連分野横断的な分析を行っていく必要があります。令和3年度の推進協議会にて、現状、成果、課題をとりまとめて報告予定としております。 地域防災の取組につきましても、避難行動要支援者の個別計画の策定をきっかけに地域の関係者が話し合い、共に考えることで、日常生活の困りごとや様々な課題を解決するための関係づくりとなることは、地域にとって大変重要なことだと考えます。庁内の関係課で連携を強化し情報共有を図りながら進めてまいります。
3	武樋委員	様々な方面から考えられた仕組み作り、取り組みが行われていると感じ、とてもあたたかな気持ちになりました。ありがとうございます。 今後はこの取り組みをしっかりと地域に根付かせていくことが求められるのではないかと思います。市民の皆様への周知もですが、同時にそれぞれの分野の支援者がつながっていくことが重要だと考えます。 また、再犯防止についての取り組みもとても大事なことだと思いました。このことについては、委員の中に専門分野の方が不在であるように感じますが、いかがでしょうか？	それぞれの分野の支援者がつながり、連携して課題を解決する仕組みづくりにつきましても、引き続き庁内連携体制の検討の中で進めてまいります。 再犯防止につきましては、現在、地域福祉計画推進協議会には専門の方はいらっしゃいませんが、検討にあたっては、保護観察所、保護司会などの関係機関の方との協議の場を別途設け、ご意見を伺う予定です。その上で、協議会委員の皆さまには、声かけや見守りなどを通じて困りごとを抱える人を孤立させない、安心して暮らすことのできる地域をめざした地域づくりの視点でご意見をいただきたいと考えております。
4	葛目委員	高齢者支援センターを地域包括支援センターとして拡充したことは2025年問題に向けて心強い取り組みです。今後いかに地域と有機的につながって活動できるかが評価のポイントになると思います。スタートしたばかりですので成果はこれからです。 地域共生社会の推進に向けた庁内体制、特に推進室の役割はとても大きなものです。幅広い生活課題に対して、縦割り行政を束ねて目に見える成果を上げて欲しいと思います。 Licoネット導入は意欲的な取り組みだと思います。まだ使い馴れていないので評価しにくいところですが、より掘り下げた実用的な内容になって欲しいと思います。また「認知症」とか「一人暮らし」、「引きこもり」などといった概念的なキーワードからも具体的情報にたどり着けるようになれば利用の幅が広がります。アフターケアとメンテナンスがとても重要です。	高知くらしつなぐネット(Licoネット)は令和2年1月31日に運用を始めたところですが、スマートフォンでの検索のしづらさや、地区(所在地)検索のしづらさなど、ご利用いただく中でさまざまなご意見をいただいておりますので、より使いやすいサービスとなるよう工夫、改善を行ってまいります。
5	細川委員	縦割りでなく横との連携をお考え頂き有難いと思います。 是非とも事例を共有して頂きたいお願い致します。困っている住民は多様な問題があります。	地域福祉の推進においては、一人一人の市民の多様な問題について丁寧に紐解き、関係機関等が連携して解決に向けて取り組んでいく上でも、事例の共有は大切だと考えております。地域の皆様から提供いただいた事例等もあわせ、関係機関等での情報共有を図ってまいります。
6	仲田委員	資料にもあるように「地域住民が「地域を考え、課題解決を図る」ことが重要だと考えるため、協議会資料18ページの「地域力の強化」と「包括的支援体制づくり」の取り組みは継続して行って欲しいです。私が所属する地域協働学部でも力を入れて行っていることでもありますが、外部の人間が一方的に活動を行うのではなく、地域住民が主体となって活動できるような仕組みづくりが大切だと考えます。 20ページの身近な地域の相談窓口で薬局を選択されたことはとても画期的だと思います。庁舎だけでなく、地域の知り合いに相談する感覚で自分の課題を伝えられるのは住民にとっても地域に住む上で安心材料となるのではないのでしょうか。他にも、理髪店や歯科医院など、地域に一定数ある事業体にもアプローチしながら、困りごとを相談しやすい地域づくりをサポートしていただけると嬉しく思います。	ほおっちょけん相談窓口は、趣旨をご説明し、賛同いただいた薬局と社会福祉法人(事業所)を認定し、ご協力をいただいております。相談内容には個人情報が含まれることがあることから、現在は、日ごろから利用者の方の個人情報の厳重な取扱いをしている、薬局・社会福祉法人にご協力をいただいているところです。 今後、さらにこのほおっちょけん相談窓口を知っていただけるよう、生活に身近な、スーパーや銀行、郵便局などに周知にご協力いただきたいと考えており、このような取組を通じて、さまざまな企業や民間団体による新たな取組や、既存の取組のネットワーク化などにより、困りごとを抱える人を孤立させない地域づくりを住民、民間団体の皆さんと協力して進めていきたいと考えております。

2 高知市社会福祉協議会の取組状況について

委員名	ご意見	回答
1 島元委員	<p>「ほおっちょけん」のひとづくり、まちづくりの推進 「ほおっちょけん」は高知らしいいい表現であり、地域福祉コーディネーターが中心となって、少子（保育園、幼稚園、小学校）・高齢化対策に対処してほしい。</p>	<p>地域福祉コーディネーターは、住民や専門職から生活の困りごと等の相談を受け、地域の人々や関係機関と協力して課題を明らかにし、解決に向けた支援をします。また、住民主体の地域福祉活動に対して学習の機会や話し合う場の運営支援を行い、住民がより自主的に活動に参加できるように支援をすることを、目的としています。今後とも、住民や専門職と協働させていただきながら、少子高齢化に伴う地域課題の解決に向けた支援に取り組んでまいります。</p>
2 松下委員	<p>▼「高知市地域福祉活動推進計画」の「高知市社会福祉協議会の取組」に沿って、項目ごとに進捗状況が事例も交え具体的に報告され、成果や課題を分析するとともに進捗状況を三段階の自己評価を付した資料となっており、大変分かりやすく理解することができました。このような「P・D・C・A」サイクルを通して、掲げた目標の到達への道筋を共有化することが必要だと思います。 ▼地域福祉を推進するにあたって、地域の核になる組織に「地区社協」がありますが、全体として地区社協の役割りが余り強調されていないように思います。地区社協の機能や役割について現状の評価と今後の役割りについて位置づけが必要だと思います。 ▼避難行動要支援者対策のベースになっているのは「支え合いマップづくり」ですが、市社協は高齢者支援課等と協働して地域でこの運動を推進してきました。この取組みは防災にとどまらず、地域福祉や町づくりに共通する「支え合いの関係づくり」に資するもので、「地域力の強化」に結びつくものだと思います。</p>	<p>【地区社協に関して】 地区社協は「自分たちの地域を自分たちで良くしていこう」という住民意識のもとに組織された地域福祉活動の推進母体であり、自分たちの住む地域にあった福祉事業に取り組んでいるとともに、共同募金をはじめとする福祉のためのお金を有効に地域で活用できる組織として大切な役割を担っています。 高知市においても、第1期高知市地域福祉活動推進計画において、町内会や自治会、いきいき百歳体操やサロンなどの小地域福祉活動を中地域圏域でまとめる組織として地区社協の機能強化に取り組み、高知市地区社会福祉協議会連合会の創設による情報交換や研修機会の充実、また、住民が主体的に地域課題について話し合える場(地域支え合い会議)づくりを進めてきました。その結果、研修参加者の活動意欲の向上(参加者アンケートより)や地域課題に対して取り組もうとする積極的な姿勢にもつながってきています。 しかし、地域福祉活動を推進していくうえでの圏域設定としては、第2期推進計画に向けた市民アンケートにおいて市民が「助け合いの範囲(まどまりやすい範囲)」として考えているのは「町内会・自治会程度」がもっとも高値(全体の47.3%)であったことなどからも、地域福祉活動が実施される「地域」を、一義的なものでなく重層的なものとして捉えていく必要があるとともに、それぞれの課題や取り組み等に応じて、適切な圏域を設定する必要があると考えております。 そのようなことから今後は、地域の特性に応じて小学校区、さらには小地域(町内会・自治会程度のエリア)における取組みを重点的に進めてくことで、地域における課題解決力の強化を図るとともに、そのような単位における活動を地区社協の単位でバックアップしていく体制(人的、財政的な支援、小地域福祉活動間の情報交換の場づくり等)を整えていくことが必要でないかと考えております。</p> <p>【支え合いマップに関して】 地域での支え合いマップづくりを展開した結果、避難行動要支援者対策の取組みにおいて効果があったことや生活上の課題等が地域で見えていなかったことが見えることにより、それらの課題を地域で話し合い、支え合う仕組みづくりを推進していくことが結果的に地域力強化につながっていると考えています。 なお、今後も地域づくりの手法の一つとして取組みを考えていますが、地域によって抱えている課題が異なっていますので、地区の実情に応じたオーダーメイドによる取組の手法として展開していく必要があると考えています。</p>
3 武樋委員	<p>いろいろな地域で人と人とがふれあい、つながる活動が行われていることを知り、とても素敵で大事に取り組みだと感じました。今後はこのような取り組みが特定の地域だけでなく、全ての地域で行われるようになることが求められると考えます。</p>	<p>資料にもありますように、第1期計画から徐々にではありますが、確実に取り組み地域は広がっています。委員さんのご意見も頂戴しながら、高知市全域での広がりへと発展させるための検討を進めたいと考えております。</p>
4 西村委員	<p>「資料2」 ボランティアニーズの受付106件→ボランティアのマッチング97件について マッチング率が高いことに驚きました。 また、ボランティアの方々の活動内容を発表する機会があればいいのではないかと考えました。発表する機会としては、高知市社会福祉大会での活動パネル展(既にやっているかもしれません。)、市役所のロビーでの活動パネル展、デパートでの活動パネル展等が考えられます。このような取り組みは、ボランティアをしている人からすれば自分たちの活動の発表の場、また、ボランティアの社会的評価の場、市民へのボランティア活動の周知・啓発につながると思います。</p> <p>「資料3」 「災害」を切り口とした支え合いの仕組みづくり この視点は納得のいくものです。 「避難行動要支援者」の中には「生活支援ニーズを抱えている人」も多い その通りだと思います。 「災害」を切り口に「誰もが安心して暮らし続けられる地域」を考える この視点も素晴らしいと感じました。 災害は市民共通の関心事であることから、この視点は市民に浸透しやすいのではないかと感じました。</p>	<p>マッチングにつきましては、日々の地域の活動の中で地域福祉コーディネーターがボランティア登録者や地域住民、関係団体等に相談しながらマッチングを行っています。いただきましたご意見のとおり、活動した本人の発表の機会は不十分と考えています。 ボランティアの方々の活動内容を発表する機会に関しては、西村委員のご意見を基に、効果的な場においてパネル展や活動の広報誌等を作成したいと考えております。</p> <p>「災害」は、住民の皆様も関心が高いことでありますので、継続して高知市とも連携しながら「災害」をひとつの切り口として「誰もが安心して暮らし続けられる地域」を考える、住民同士の話し合いの場をつくり、活動につなげていきたいと考えております。</p>
5 葛目委員	<p>ほおっちょけん学習については私の地域でも住民を巻き込んだ形で展開され、よく効果を上げていると思います。将来の福祉社会形成につながる希望を感じます。 住民が地域課題について主体的に考えることができる機会づくりとして、小地域を対象にした働きかけは非常に望ましい方向だと思います。そんな場で住みよい地域づくりという大きなテーマで福祉の枠を超えて話し合いができれば、より身近な範囲でお互い様の意識形成が進むのではないかと期待が持てます。</p>	<p>ほおっちょけん学習の実施に対しては、毎年ご協力をいただき、ありがとうございます。 皆様のご協力により、子どもたちの中での「ほおっちょけん」の認知度も向上し、「思いやりの気持ち」が芽生えつつあるのではないかと感じております。 特に今年1月、秦地区社会福祉協議会の皆さんにもご協力をいただき実施しました秦小学校2年生のほおっちょけん学習におきましては、学習後の子どもたちの感想の中に「今は守られる方だけど、いつかは守る方にもなることが分かりました。」といった感想もあり、ほおっちょけん学習は、「おもいやりの気持ち」を学ぶ学習であると同時に、子どもたちが地域の人に大切に思われていることを実感できる経験、子どもたちが自分たちの暮らす地域のことに関心を持つきっかけにもなるなど、様々な体験や交流から子どもたちの自己肯定感や自己有用感が育まれる貴重な機会にもなっていると感じております。 なお、今後は市社協としまして、地域の皆さんがほおっちょけん学習の運営をサポートしてくれるボランティアとして、「ほおっちょけん学習サポーター」養成講座を計画しており、「ほおっちょけん学習サポーター」の皆さんとともに、この養成講座を通じて、このような機会を少しでも多くの子どもたちに提供するだけでなく、同じ地域の一員として、子どもたちと共に学び、世代間における福祉の気持ちを共有していく活動として、市全域に展開していけるよう取り組んでいきたいと考えています。</p>
6 細川委員	<p>具体的にどう実行できるのか？又拡散出来るのか。住民の方はまだまだ社協活動に対して認識不足の方が多いため広報活動をもっとして頂ければと思います。</p>	<p>広報活動につきましては、社協活動だけでなく、地域福祉コーディネーターの地域での取り組みの中で、地域で共に活動している方についても広報していくことで、理解していただき住民の方の認識が高まるのではないかと考えています。 また、今後は「市社協に関心を持ってもらう」「社会課題を共有する」「住民が参画したいと思える」広報を目指して、令和2年3月に策定しました2020年度～2021年度広報戦略プランに基づき、取り組んでいきたいと考えています。</p>
7 仲田委員	<p>地域課題発掘のためのワークショップから、実際の活動まで、幅広く活動されていることに感銘を受けた。これは理想になってしまうが、課題発見から解決のプロセスを住民と共にできたらいいと考える。地域でのワークショップはやったらそのままになってしまうことが多いが、そうではなく、課題解決のPDCAを住民のみならずも体験できるような取組にしたいだけだと嬉しいです。 そこで、社会福祉協議会のみならずに質問させていただきたいのですが、地域に入る際、自分たちの介入度合いはどのように決められているのでしょうか。マニュアルのようなものに従うのか、個人の裁量なのか等教えていただきたいです。</p>	<p>地域福祉活動は、それぞれの地域によって特性が異なる場合があるため画一的なマニュアルはありません。 地域福祉活動は、住民の皆さんが自立して取り組みを進めていくことが何よりも重要ですので、住民の皆さんがやりたいと思う主体的な活動を支援することを意識しながら関わっています。そのため、地域によって様々な違いがありますので、状況を見極めながら個々の職員の判断で介入の度合いや内容を検討しています。 また、地区担当は1名ですが、東西南北圏域ごとのチームによる運営をしており、できるだけ担当個人の裁量にならないよう、チームの中で検討・協議するよう取り組んでいます。</p>

3 高知市及び高知市社会福祉協議会の取組状況について

委員名	ご意見	回答
1 高橋委員	<p>私の視野狭さと深みの不足を自覚しつつ、現在の自分の立ち位置から意見とも感想ともつかない文章を記していくことをお許しください。 自分の立ち位置として ①専門家でもない全一の市民(前期高齢者)として。 ②障害の有無にかかわらず誰もが気楽に集まり、ゆったりと過ごせる町の中の〈居場所サードプレイス〉をボランティアスタッフの皆さんと運営している者として。 「カフェ サードプレイスすろー」を始めて6年目になります。 すろーはどこにでもあるカフェの形態で①止まり木の機能②相談の入り口的機能③体験(学習)の場としての機能④情報提供機能を持った〈街の中の居場所〉を目指し運営してきました。 詳しい内容の説明は省きますが、5年半の歳月を経てますます実感していることは〈地域の中の居場所〉の必要性和居場所の選択肢の豊かさとして連携の大切さです。 すろーには障害当事者の方や家族の方、高齢者、近くにお勤めの方など様々な人が来てくださいます。 顔なじみで気安く、安心してゆったりできる地域の中の居場所を持つこと。この緩いつながりの中から、時には愚痴や発散したいおしゃべり、困りごとの相談などをできるようにすることをすろーの運営から学びました。 地域によって様々な形態の地域の居場所(資料3の各事例等)を土台として「ほおちよけん相談窓口」もより活かされるのだと思います。 〈居場所〉は人によってさまざまなニーズや好み、感覚の違いがあるので選択肢が豊かであることも大事なことです。そしてそれを自分で選択できること。その為にも歩いても行ける場所にあること。自分が高齢者になって実感することです。 例えば、高知の曜日市のなかになんかちょっと座って話しくつろぐ場があるとか、いたるところにあるコンビニのイートインスペースの活用などはどうでしょう。 地域福祉と当事者 学校卒業後地域社会の中で働き生活している、何らかの生きにくさや疎外感、生活に物足りなさを感じている当事者の方々があります。 『休みの日に行くところがない』『話す人がおらん』『なんかすることがない』は彼らのつぶやきです。 地域の中でくいきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち〉の一員として、その人に合った〈区別されない地域の居場所〉に彼らも〈日常的に参加〉し、時にはボランティアとして地域社会の中で役立っていくことに喜びを感じていくことはできます。 社会を構成する同じ人間として、同じように生きにくさ、しんどさを抱えている人間として自然なやり取り関わりができないのか。その場や方法は？ 〈だれでもが〉の中に、障害当事者やその家族がどの程度含まれているのか。 いつまで〈障害者理解〉の〈教育や啓発推進〉をしなければならないのか。 障害者(児)と健常者、理解する側と理解される側、支援する側とされる側という線引きがなぜ存在するのか。 行事的にイベント的に〈交流〉しなければならない状態をどう考えていくのか。 推進計画の中に、地域の一員として居場所を必要とし福祉活動の担い手にもなりうる当事者という視点も必要ではないでしょうか。</p>	<p>第2期地域福祉活動推進計画の「基本目標4 地域や福祉の担い手づくり」の中にも、「支援する側と支援される側という画一的な考え方・仕組みから、地域や福祉の活動を「みんなで担う」という考え方・仕組みへの転換を図るため、地域の状況に応じた多様な人材の発掘・育成の仕組みづくりを推進します」という記載をしており、高知市としましても、高橋委員がおっしゃる地域の皆さんの「つぶやき」がとても大切になってきます。「休みの日に行くところがない」「話す人がおらん」「なんかすることがない」等のつぶやきに耳を傾け、地域活動、地域づくりへとつないでいくことが重要であり、そのために第1期地域福祉活動推進計画の策定と併せて、高知市社会福祉協議会に地域福祉コーディネーターを設置しました。今後、地域の皆さんのつぶやきをもとに地域づくりを進めていくためにも、ぜひご支援ご協力をよろしくお願いいたします。</p>

4 その他資料に係るご意見・ご質問等

委員名	ご意見
1 島元委員	<p>「断らない相談支援」はいいことである。 生産性のないことも、本人にとっては大事なことであり、世帯の支援をはかっていく。 本当に困った人は自分ではなかなか言えない。それに「気づく」ことが肝要。</p>
2 葛目委員	<p>庁内に地域共生社会推進の体制ができたことは画期的なことだと思います。地域福祉推進のためというよりもむしろ広い意味で住みよい地域社会をつくるために機能を発揮することができればありがたいです。現実的な生活においては町内会が大きな意味を持っていると思います。福祉の観点からも防災の面からも、町内会充実の必要性を強く感じます。</p>
3 細川委員	<p>息長く住民に理解、協力を求める為に他県活動をもっと知る必要もあるのではと思います。</p>
4 仲田委員	<p>10ページにあります「伴走型支援と地域住民の気に掛け合う関係性によるセーフティネットの構築」の部分で、地域住民の気に掛け合う関係性は非常に重要だと考えます。しかし、重要だからこそ難しい部分でもあると考えます。地域で自分の生活に課題を抱える人はそもそも見えづらいという部分があるからです。そうした人は出会いの場を創出するなどしてもなかなか顔を出すことがないというも現状ではないでしょうか。すでに実行されているかとは思いますが、民生委員等、地域の見守り役の方々により一層連携を深め、取り組んでいくことが重要だと考えます。</p>